



Title	観光地における持続可能なボランティア組織の条件：北大キャンパスビジットの事例から
Author(s)	岡本, 健; 敷田, 麻実; 森重, 昌之
Citation	日本観光研究学会2007年度総会 ポスターセッション．平成19年5月26日．東京都．
Issue Date	2007-05-26
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/35571
Type	conference presentation
File Information	okamoto2.pdf



[Instructions for use](#)

観光地における持続可能なボランティア組織の条件 —北大キャンパスビジットの事例から—

Feasibility Study for Sustainable Volunteer Organization for Tourism Destinations

岡本 健* 敷田 麻実** 森重 昌之***

OKAMOTO, Takeshi SHIKIDA, Asami MORISHIGE, Masayuki

1. はじめに

近年、ボランティア活動に対する社会的重要性が強調され¹⁾、個人のエンパワーメントに果たす役割も重視されている。観光分野でもその動きは例外ではない。観光ボランティアガイドによって、ボランティア参加者には郷土への誇りの醸成や新たな出会いの機会、観光客にはより深い知識の習得と双方にメリットがあり²⁾、観光地の魅力を伝える上で重要な役割を果たしている。

しかし、現状ではボランティア活動が持続・発展せず、活動を縮小・解消する場合も多い。

そこで本研究では、札幌市にある北海道大学で2002年から実施されてきた、大学生の観光ボランティアによる「北大キャンパスビジットプロジェクト」を事例として、持続可能な観光ボランティア活動を支える組織の条件について論じる。

2. 北大キャンパスビジットプロジェクトの概要

北大キャンパスビジットプロジェクトは、北海道大学への訪問者に対し、大学生がボランティアでキャンパスツアーを行う取組みであり、主な対象は高校生と地域住民(札幌市民)に分けられる³⁾。ツアーの具体的な方法は、大学生の観光ボランティアが専門分野を担当する教員から北海道大学についての基礎的な知識を学び、それに大学生が独自に集めた知識を加えて「台本」と呼ばれるガイドブックを学生が作成し、それに基づいて北海道大学のキャンパス内をガイドするしくみである。

北大キャンパスビジットは、設立当初(2002年10月)は計37名のメンバーがいたが、現在14名まで減少している(表-1)。

表-1 北大キャンパスビジットの構成員数の推移

年度	学部生	大学院生	事務職員	教員	計
2002	23	8	3	3	37
2003	18	8	3	3	32
2004	24	4	3	2	33
2005	7	4	2	1	14
2006	7	4	2	1	14

3. ボランティアの「やりがい」と動的情報

一般に、学生などの若者がボランティア活動を辞めるのは「やりがいを見出せなくなった時に多い」と言われている⁴⁾。また、ボランティアのやりがいは複数人が情報を持ち寄り、情報のやり取りをすることで生まれる「動的情報」を得ることにある⁵⁾。

動的情報とは、既知の情報である「静的情報」に対して、事物に対する新しい理解や新しいやり方を指す。

観光ボランティアが、決まった知識(静的情報)を教え込まれ、ただ観光客にガイドする(静的情報の一方的受け渡し)という状態が続くと、「知識の固定化」が起こる。「知識の固定化」とは静的情報の蓄積が停止し、動的情報への変換可能性が低下することを指す。

4. 組織による動的情報の生成支援

このように、観光ボランティア活動に対する「やりがい」を維持するには、静的情報の交換による動的情報の生成が必要である。動的情報がガイドと観光客、あるいはガイド間で生成されると考えると、動的情報を創出するには、蓄積された静的情報を交換、組み合わせるしくみ、すなわち「学習の場」が必要となる。

そこで、観光ボランティアを組織化することによってボランティアガイドに学習の場を提供することが考えられる。

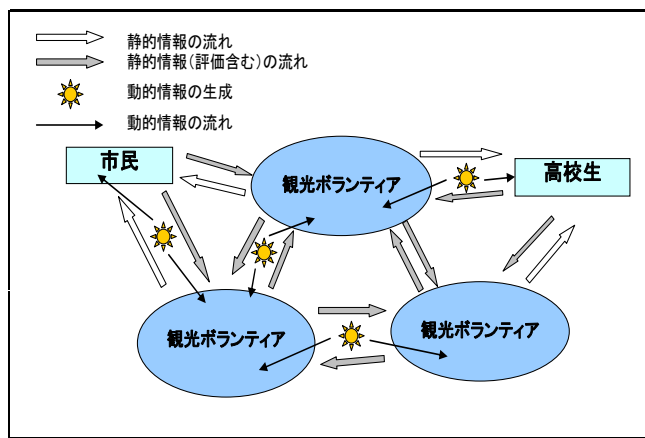


図-1 静的情報の交換を通じた動的情報の生成

5. 応用可能性

地元の観光ボランティアは外からの観光客からの情報を吸収し、ボランティア同士で学習することにより、住んでいるとなかなか気がつかない地域の魅力を地域に住む人自身で見つけることができ、地域中心の自律的な観光を支える中核的な仕組みになりうる。

【参考文献】

- 1) 山内直人(2001):ボランティアの経済学(内海成治編「ボランティア学のすすめ」、昭和堂)、pp.188-211
- 2) 草薙威一郎(1997):観光ボランティア(長谷政弘編「観光学辞典」、同文館)、pp.95
- 3) 池田 文人・鈴木 誠(2004):北大キャンパスビジットプロジェクト—学生主導による開かれた大学創りを目指して—、高等教育ジャーナル、12、pp.31-39
- 4) 桜井 政成(2007):ボランティアマネジメント、ミネルヴァ書房、pp.49-67
- 5) 金子郁容(1992):ボランティア もうひとつの情報社会、岩波書店 pp.121-122

*北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院観光創造専攻修士課程

**北海道大学観光学高等研究センター

***北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院観光創造専攻博士後期課程